

## 平成26年度 第1回 さいたま市大宮盆栽美術館運営委員会 会議録

日 時 平成26年7月9日（水）午前10時から正午

場 所 大宮盆栽美術館 2階 講座室

出席者 （敬称略50音順）

### <委 員>

老川慶喜（立教大学 経済学部 教授）、恵良文人（東日本旅客鉄道㈱ 大宮支社 営業部長）、大越久子（埼玉県立近代美術館 学芸主幹）、小林正太郎（㈱JTB関東 法人営業埼玉支店 交流文化事業チームマネージャー）、田端フサ（ぼんさい遊々 副会長）、村上和夫（立教大学 観光学部 教授）、森紀与子（盆栽研究家）、[代理]澤田直樹（埼玉県産業労働部観光課 主査）、吉田俊一（埼玉新聞社 編集局次長兼ニュースセンター長）

### <事務局>

菅建彦（大宮盆栽美術館長）、桑原勝（同参与）、山田登美男（同盆栽管理官）、渋谷仁（同係長）、井上拓巳（同主任）、田口文哉（同主事）、石田留美子（同主事）、林進一郎（同主事）、川田泰則（文化施設準備室主幹）

### 【次第】

- 1 開 会
- 2 委嘱状の交付
- 3 あいさつ
- 4 委員紹介
- 5 委員長、副委員長の選出
- 6 議 事
  - (1) 報 告
    - ①海外広報専門部会及び Web サイトリニューアルについて
    - ②（仮称）国際大宮盆栽アカデミーの進捗状況について
    - ③平成25年度入館者数等について
  - (2)議 題
    - ① 平成26年度大宮盆栽美術館の主な展示事業について
    - ② 来館者の盆栽等資料写真撮影（記念写真）について
- 7 その他

## 8 閉 会

### <配布資料>

- 資 料 委員名簿・条例
- 書類番号1 海外広報専門部会について
- 書類番号2 (仮称) 国際大宮盆栽アカデミーの進捗状況について
- 書類番号3 平成25年度入館者数等について
- 書類番号4 秋季特別展「盆山 BONSAN」
- 書類番号5 企画展「第2回日本の景松 黒松」
- 書類番号6 春季特別展「山田香織個展(仮称)」
- 書類番号7 来館者の盆栽等資料写真撮影について

### 【会議内容】

#### 6 議事

##### (1) 報 告

- ①海外広報専門部会及び Web サイトリニューアルについて
- ②(仮称) 国際大宮盆栽アカデミーの進捗状況について
- ③平成25年度入館者数等について

##### (意見・質問等)

##### ②アカデミーについて

委 員：現在のところ候補となる土地は市有地3か所とあるが、隣接地に県有地があり、県との交渉はできないのか。

事務局：隣接地は県の研修センターであり、実際に運営している状況であるため、現実的には難しい。事業に差しさわりのない点では交渉することがあるかと思われる。

委 員：できることであれば、県との交渉も検討に入れて欲しい。

##### ①海外広報専門部会

##### ③平成25年度入館者数等

委員長：フランス人が増えたのはクリテリウム関係の影響なのか。

事務局：そのように考えられる。今後も事業と結びつけた海外からの来館者数増加を目指したい。海外広報検討部会が組織され、美術館発行の様々な印刷物ができたことがPRにつながったと考えている。

委 員：年間パスポートの利用者数からみると、リピーターの取り込みができていているように思える。

委 員：中国人の来館者数が少ないように感じる。これは中国と日本の盆栽の違いなどが要因だろうか。

事務局：昨年、中国で世界盆栽大会が開かれた。中国での人気が高くないわけではないが、政治的な問題などがあり、減少しているのではないだろうか。

委員長：生涯学習機関への広報などはどこまでしているのか。

事務局：市内施設を中心に広報を行っている。

委員：埼玉県立近代美術館では、県内の図書館・公民館、小学校・中学校・高等学校へチラシなどを送付している。発送の負担が大きいですが、来館者数の増加には必ずしも直結していないと感じる。特に県北からの来館者数は少ない。生涯学習機関の事業での来館であれば、まとまった来館者数が期待できるのではないかと。

委員：吉本興業の大宮ラクーン吉本劇場では盆栽のマークを使っている。こういった機会を生かせれば、口コミにつながり、集客に結び付くのではないだろうか。

委員：JR東日本では本年12月から翌年3月に川越・大宮企画を計画している。また来年3月、大宮駅130周年のイベントがあるので、大宮盆栽美術館のPRブースなどで出店してはどうだろうか。

委員：日本語教育は現在広く行われるようになってきているので、国際交流協会や日本語教師に日本文化を説明するときに、「盆栽」の言葉を入れてもらえるようにできないか。中国人については、中国本土からの来館を促すのは難しいが、留学生にアプローチしてはどうだろうか。また世界中の大学には日本語クラブがあるため、そういったインテリ層へのアプローチしてはどうだろうか。

## (2) 議題

(意見・質問等)

### ① 平成26年度大宮盆栽美術館主な展示事業について

委員：企画としてはいいものが多いと思われます。広報活動をしっかり行ってほしい。

委員：今までにない、魅力的な企画だと思います。

### ② 来館者の盆栽等資料写真撮影（記念写真）について

事務局：展示資料、特に盆栽の写真撮影について、現状の撮影可能範囲を拡大することについて、開館以来、来館者から要望が寄せられている。拡大するか否か等について検討する必要がある。

委員：現在の写真撮影可能なものだけでは、変化に乏しいと感じる来館者はいると思われる。また写真撮影については、他の来館者の観覧を妨げる恐れがある。日時を指定するなど限定的にするなど工夫が必要ではないだろうか。

委員：集客面からすると写真が撮れること、またそれを口コミで伝えることは大きいのではないだろうか。

委員：資料保全の意味からみて写真撮影はどうだろうか。

事務局：大宮盆栽村では原則撮影禁止。高木盆栽美術館も禁止だった。場所が狭いということ、撮影者が場所を占有してしまうこと、事故が起こりやすいということ、管理が難しくなるという問題がある。また悪用の恐れもある。文化・集客効果などのい

い面だけでないということで、忠告を申し上げた。

委員長：盆栽組合内でも対応が違う場合もあるようだが。

事務局：基本的には組合内で禁止の申し合わせをしたが、取材や撮影などの件もあり、すべてがそれですむわけではない。

委員：様々なハードルがあるが、一番のハードルは何だろうか

事務局：できればいい状態の盆栽を適切な場所で撮影することが望ましい。

委員：写真撮影については、どの位置からとればいいのかということを、明示しておく必要がある。写真を撮れないという理由についても明示しておく必要がある。

委員：現在の状況は、撮影エリアが明確になっているので、そういった意味では十分ではないかと思われる。自分の職場でも写真撮影については検討事項になっている。資料を守ること、そして作った人の権利を守ること、そういったことが重要である。

事務局：引き続き、この件については検討をしていきたい。